

「令和2年度行田市 障がい者差別についての アンケート」結果

行田市健康福祉部福祉課
障害福祉担当

このアンケートは、障がい者への「不当な差別的取り扱い」や「合理的配慮の提供」などの現状や、どのように相談や問題解決が行われているかを把握するため、障がい者の方またそのご家族などへアンケートを実施したものです。

【調査期間】 令和2年12月15日～令和3年4月9日

【対象者】 市内の障がい者団体、障がい福祉事業所等を利用している
本人またはその家族や支援者等

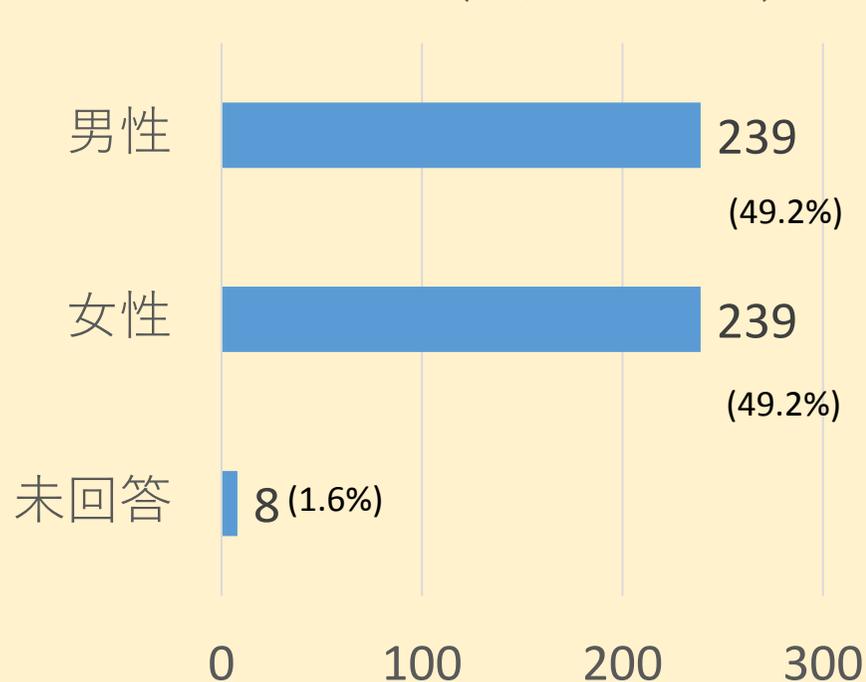
【回収数】 486件

※回答の集計にあたり、選択肢の1つを回答していただく設問であっても、複数の回答がある調査票がありました。回答者の意思を尊重しそのまま集計しています。そのため、各設問の回答数に整合が取れていない場合があります。

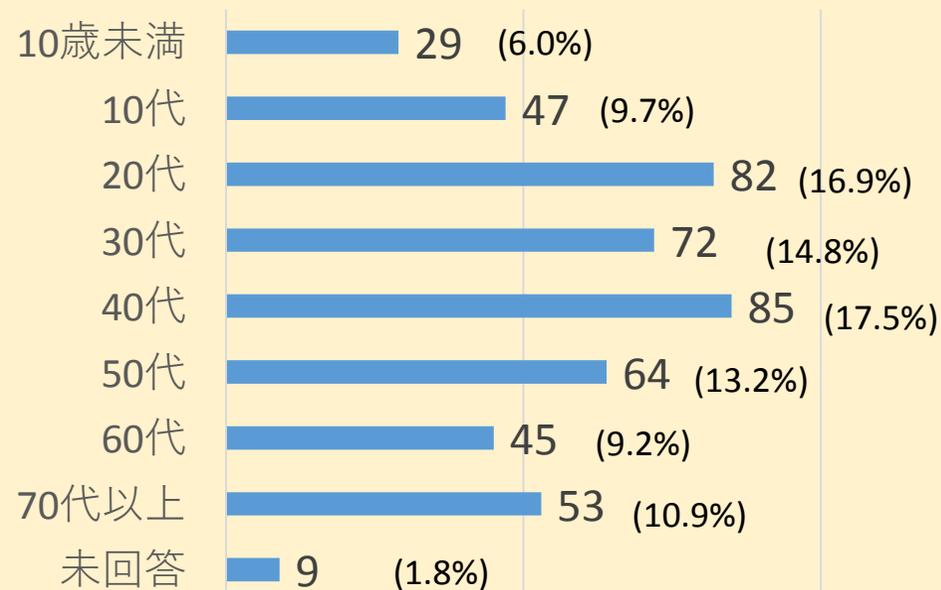
Q1.あなたについて 【性自認（性別）】 【年齢】

回答者の性自認及び年齢は以下のとおりです。

性自認（回答数486）

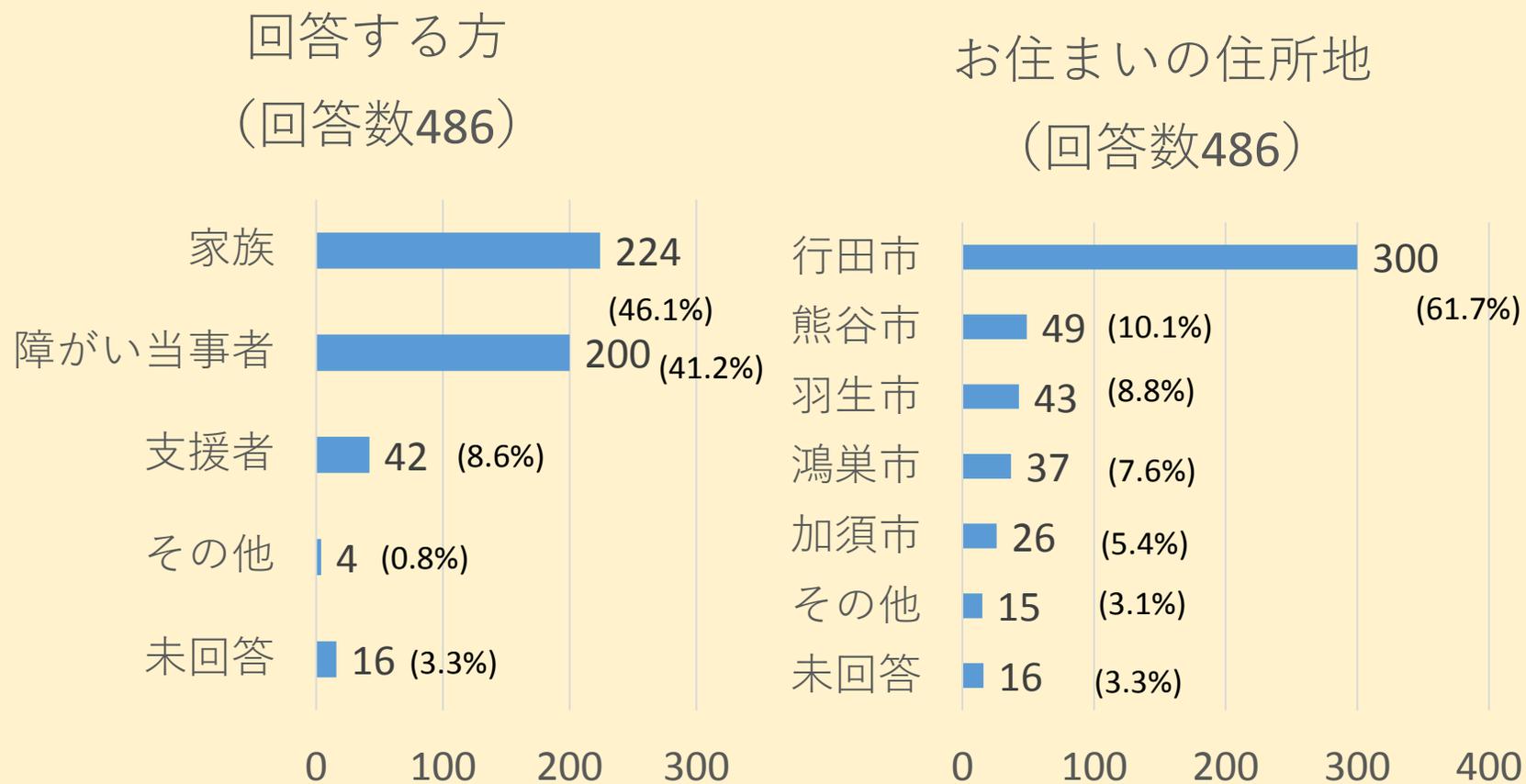


年齢（回答数486）



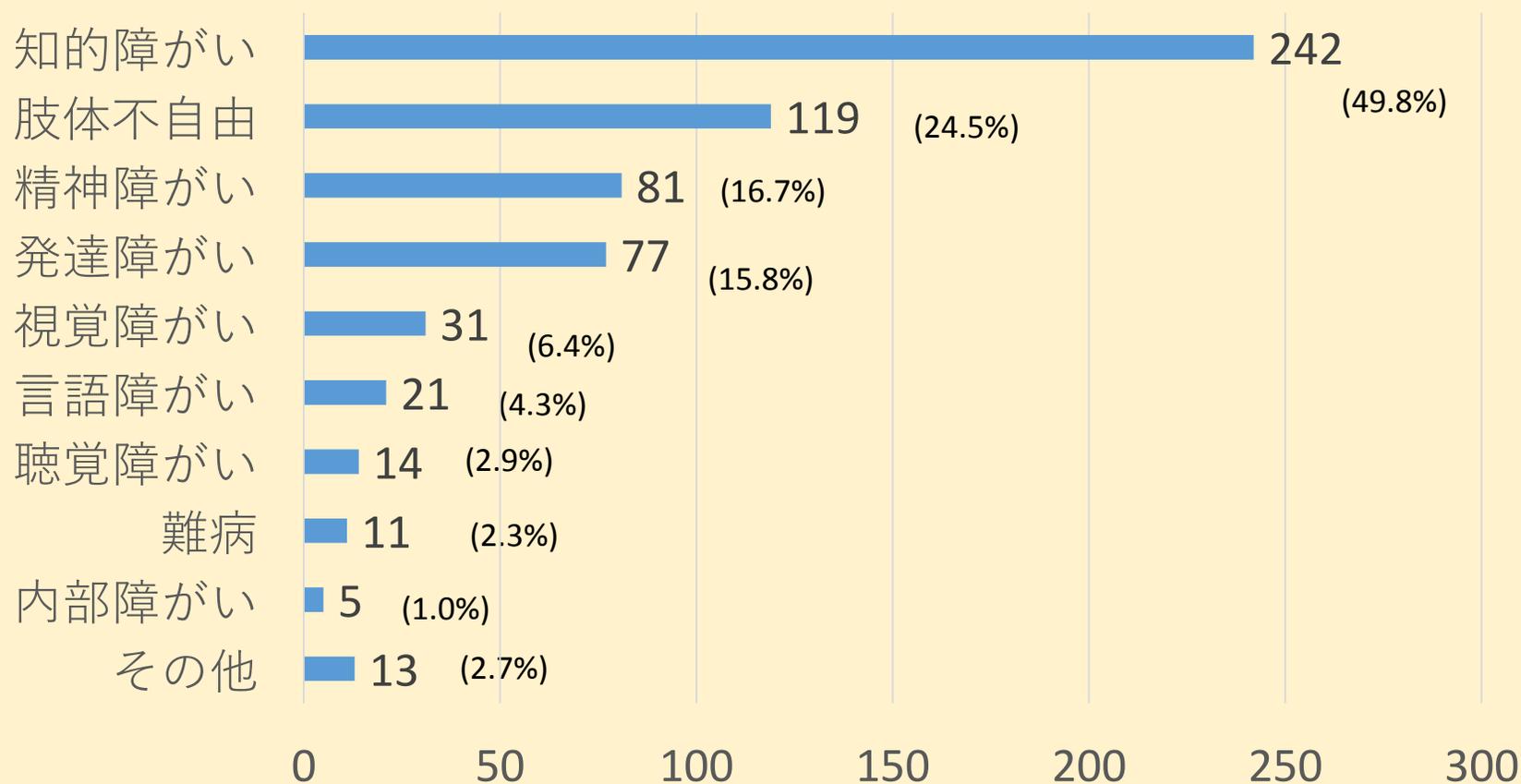
Q1.あなたについて【回答する方】 【お住まいの住所地】

回答する方及び回答する方の住所地は以下のとおりです。



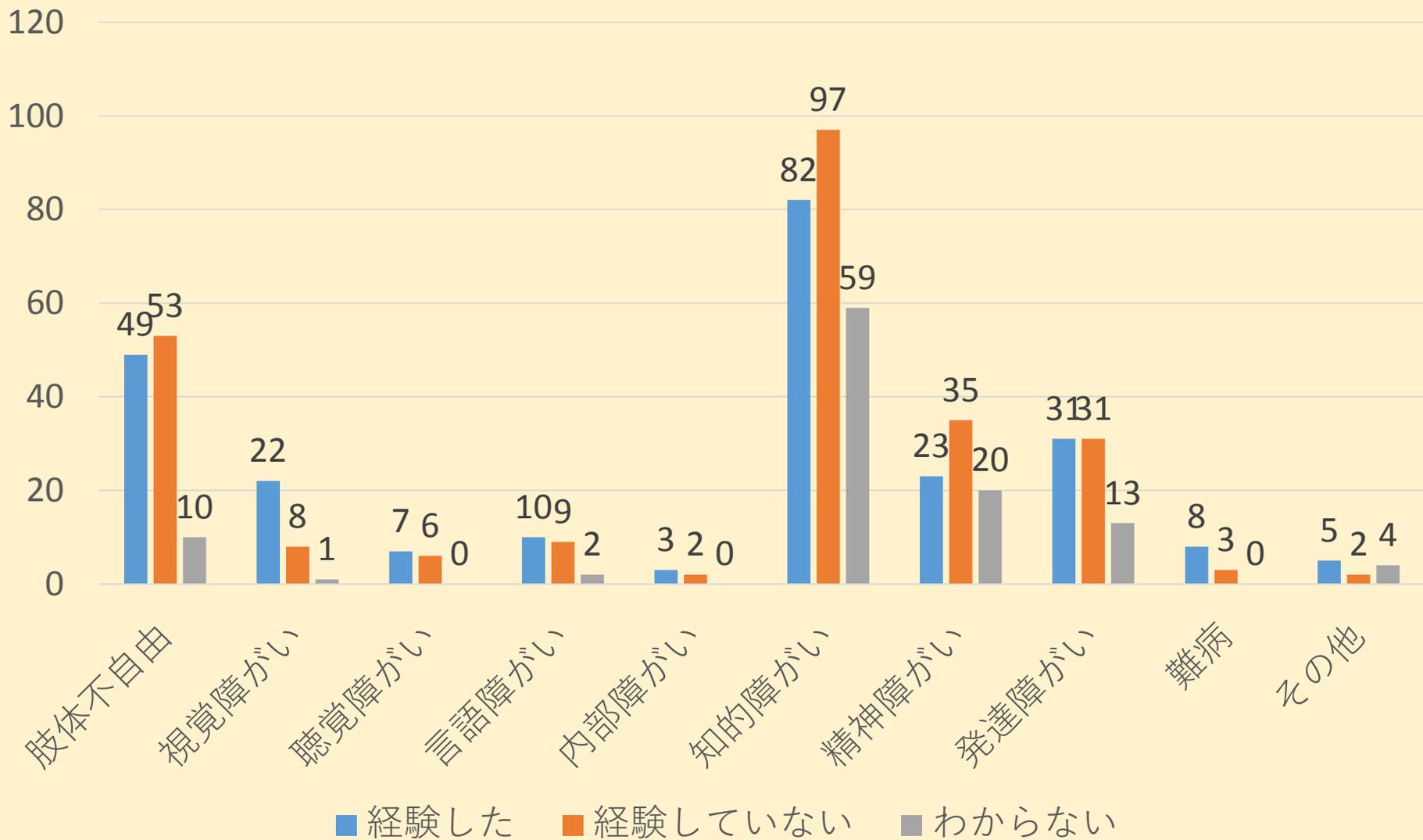
Q2.障がい種別について（該当するものすべてを選択）（回答数486）

回答した方に関する障がい種別は以下のとおりです（障がい重複あり）



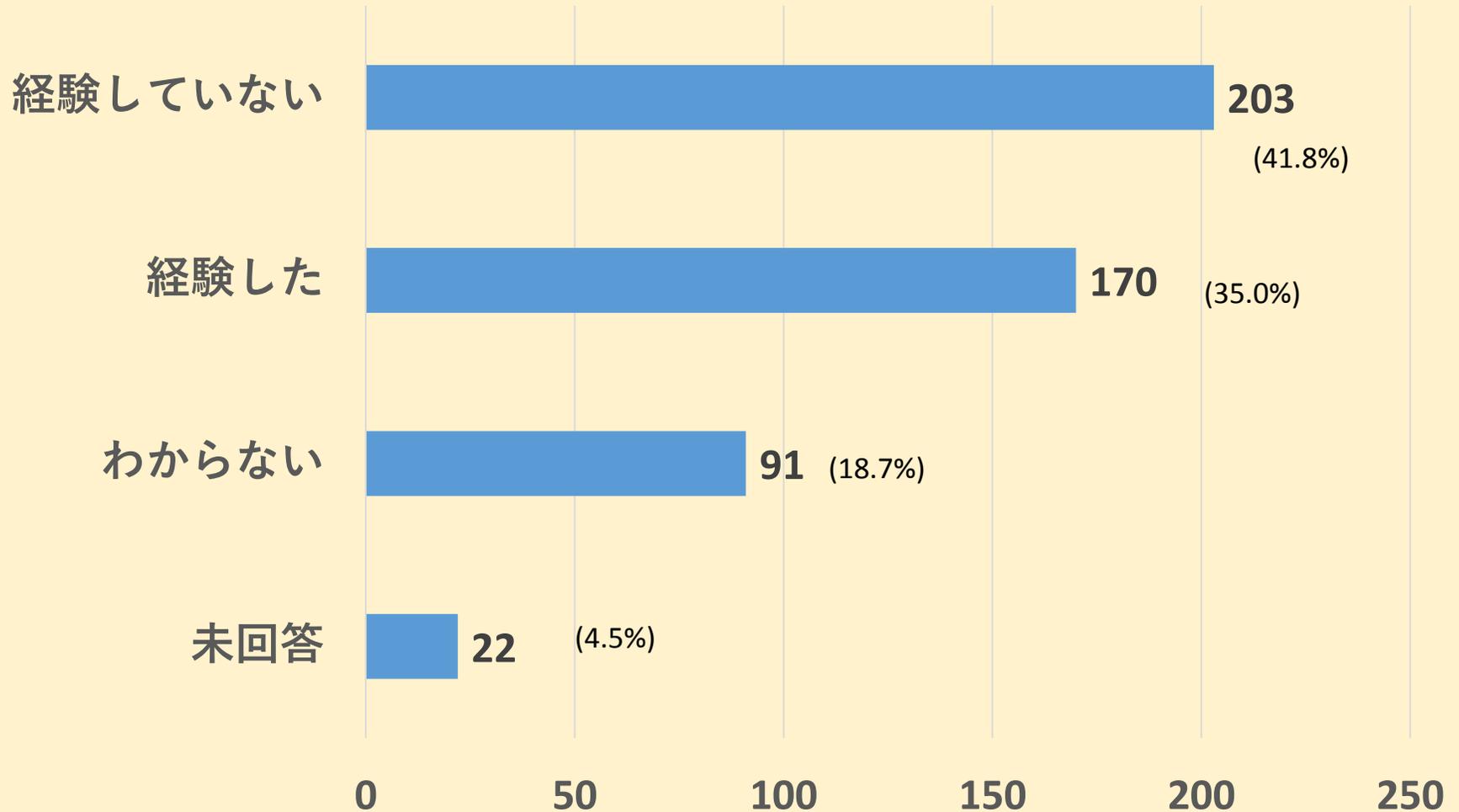
Q2. 障がい種別について

※障がい種別による差別の経験の有無



Q3.障がいを経験した理由とする差別を経験しましたか。
(差別の経験の有無) (回答数486)

障害を経験した理由とした差別を経験した人の割合は、回答数486のうち、170 (35.0%) との結果となりました。



Q4.どのような差別を経験しましたか。

【経験した地域】及び【経験した年（およそ）】の回答です。

「Q1.回答する方の居住地」と比例し、経験した地域（左下表）も行田市が多い結果となっています。

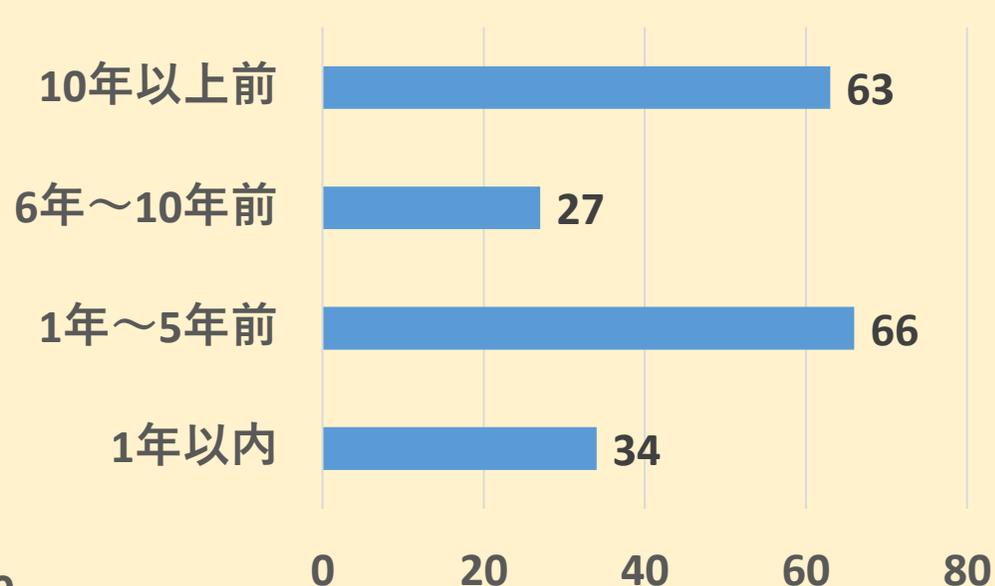
経験した地域

(回答数218)



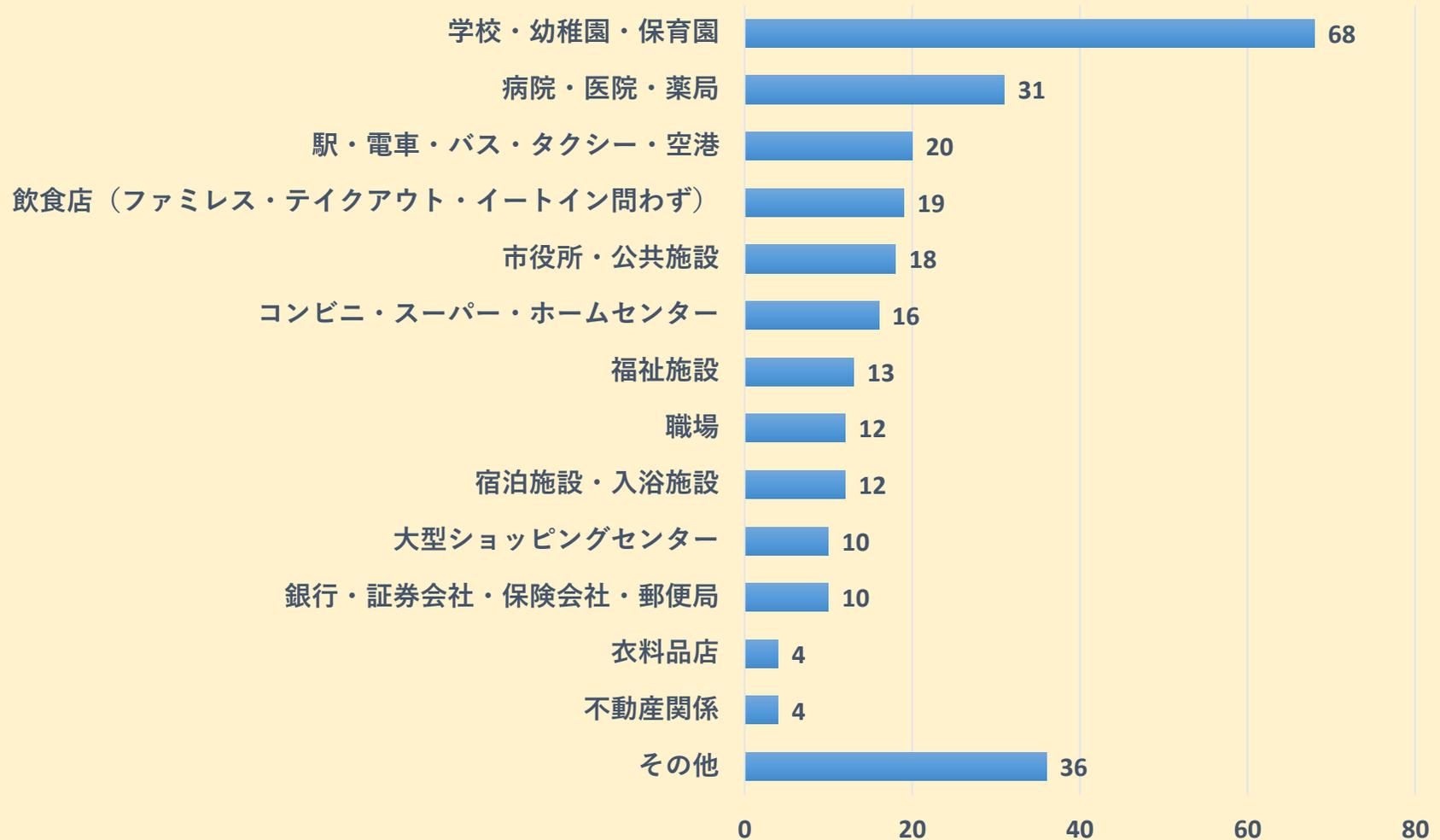
経験した年（およそ）

(回答数190)



Q4.どのような差別を経験しましたか。

【経験した場所】の回答です。(複数回答可) (回答数273)



Q4.どのような差別を経験しましたか

【経験した場所】

「その他」の場所について、一部を抜粋して紹介します。

- ・映画館
- ・ミュージアム（博物館）
- ・理髪店、理容店
- ・収録スタジオ
- ・祖父母宅
- ・叔父叔母宅
- ・義理祖父母宅
- ・近所の住民宅
- ・高速道路サービスエリアのトイレ
- ・スクールバスの車内
- ・路上や歩道
- ・面接先の会社
- ・結婚式
- ・各種イベント（お祭り会場）
- ・公園
- ・散歩中

Q4.どのような差別を経験しましたか.

【どのような理由で】の回答です。(複数回答可) (回答数264)



Q4.どのような差別を経験しましたか。

【どのような理由で】

「その他」の理由について、一部を抜粋して紹介します。

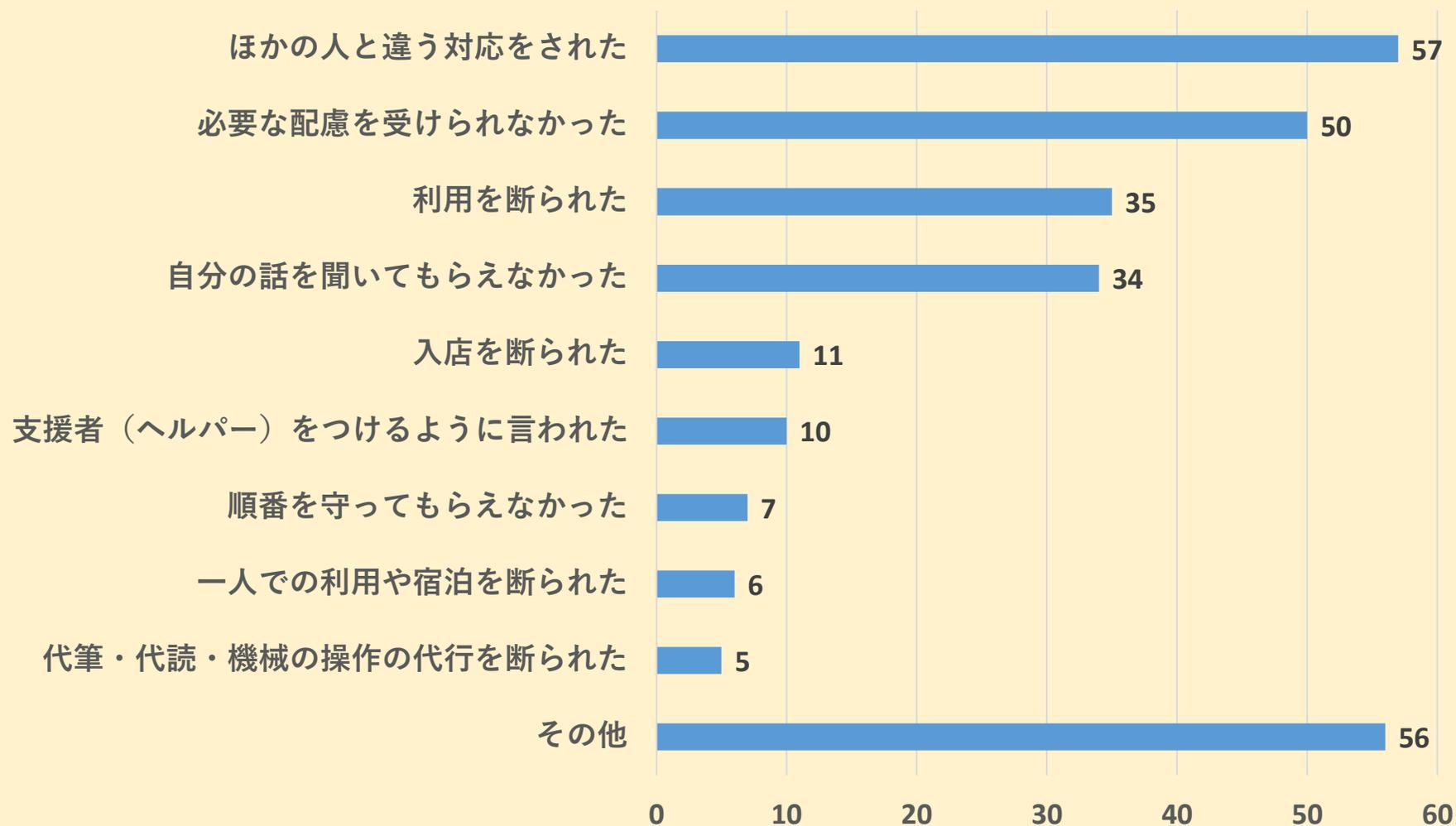
- ・待っていることが出来ず大声を出してしまった。
- ・健常児と同じ行動がとれない。
- ・動作が一般の方と違う。
- ・現場の人員不足により拒否された。
- ・他児童と同じ行動がとれない（集合に遅れた）。
- ・ひとり言をいう。
- ・落ち着くまでに時間がかかる。
- ・学校での仲間はずれ
- ・松葉づえをついていた。
- ・集合に遅れた。

Q4.どのような差別を経験しましたか。

【どのような対応をされた】の回答です。

(複数回答可)

(回答数271)



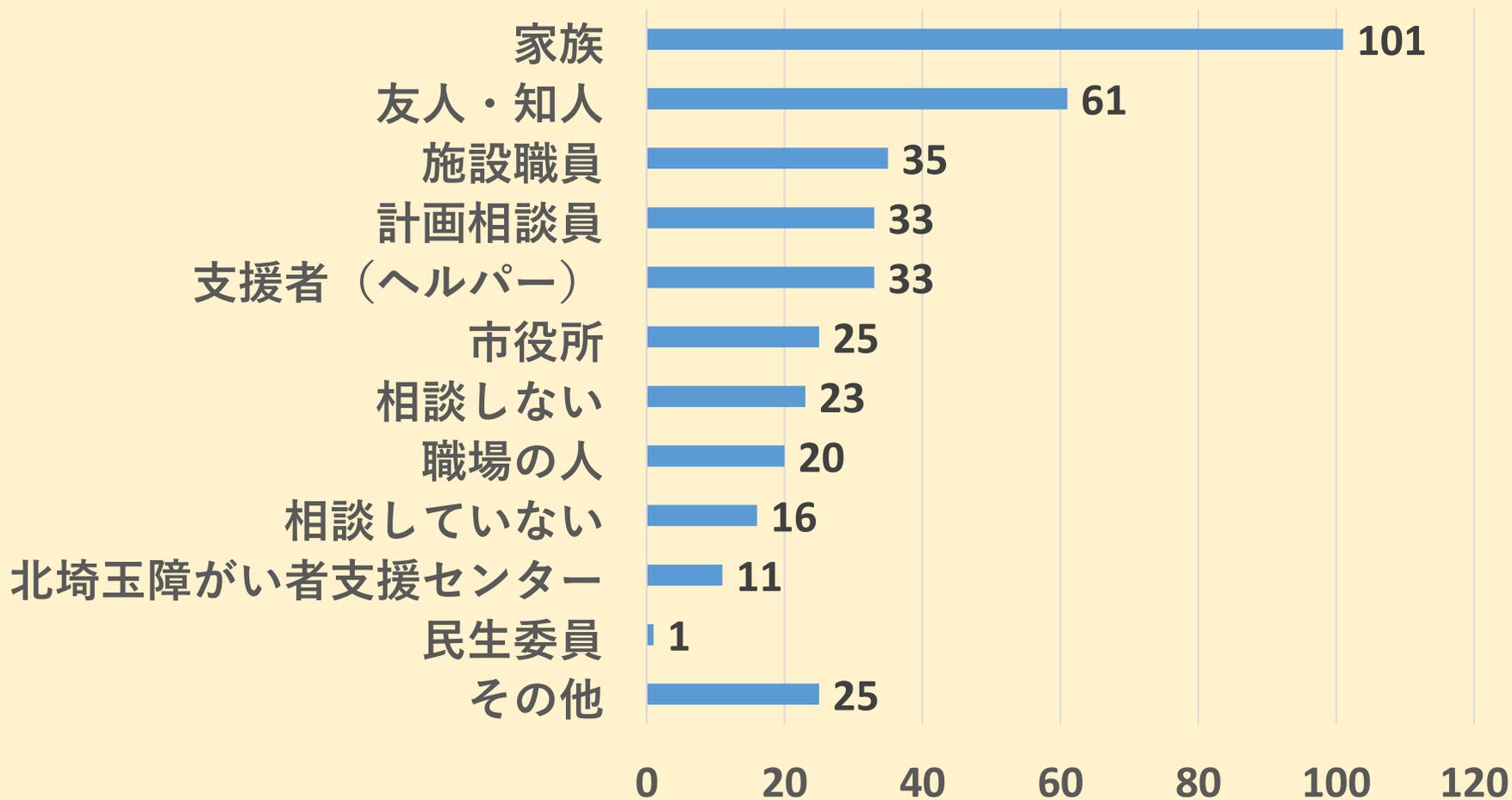
Q4.どのような差別を経験しましたか

【どのような対応をされた】

「その他」の対応について、一部を抜粋して紹介します。

- ・何もしていないのにいきなり暴言を吐かれた。
- ・「入場したかったら本人を持ち上げて階段あがったら」と言われた。
- ・他の客に文句を言われた。
- ・夕方、車イスでチョロチョロするなど怒鳴られた。
- ・家を借りるときに「障がいを持っていると危ない」と言われた。
- ・防犯のため退館するように言われた。
- ・長時間労働とまかない（料理が腐っていることがあった）。
- ・「人が多いときは来ないでほしい」と言われた。
- ・「本人が成人後、後見人を付けないと、一切の取引をしない」といわれた。
- ・「手助けの必要はない」と言われ、手助けをしてくれている児童に向かって交流級担任が怒鳴った。

Q5.あなたは差別を受けた時は誰に相談しましたか。
または、これから差別された時に誰に相談しますか。
(複数回答可) (回答数384)



Q6.障がい者差別について、自由記載欄に書かれたものを一部抜粋して紹介します。

障がいに対する差別をやめてほしい。現代において、差別は”あってはならない”と強く願っている。差別を受けた人は戦うべき。泣き寝入りしてはダメ。

昔は今よりも差別があったようですが、最近あまり差別という声は聞かれなくなりました。逆に、健常者よりも優遇されている点もあるようです。私も55歳から中途障がいになりましたが、最低限の生活は守られています。あとは、本人のやる気次第だと思います。障がいに甘えない気持ちを持って毎日を過ごすことが一番だと思っています。

買い物などの付き添いの際、まずは本人（障がい者）に声掛けをして頂いているので、これからも続けて頂きたい。
また、声掛けをして頂いた際に介助者が先に答えようとしてしまうことがあるため、まずは、本人の意見や答えを待つように心がけることが必要。

差別をされる・されない以前に美容室では座ってられないだろうから、ちょっと利用は無理かなと行ってもいないのに親の私が勝手に判断をしてしまっている。差別してしまっているのは私だなと思いました。
嫌な顔をされたらどうしよう、何か言われたくない、いろいろな場所へ行っていろいろな経験をさせてあげたい気持ちはあるのに、なかなか行動には移せていません。そんな自分の気持ちから変えていかなければと思っています。

障がい者であることを理由に、差別を受けた覚えはないが、人と違った言動などで世間の目がとても気になったり、いたたまれない思いを多少なりともしてきた事は事実です。それは当人ではなく一緒にいた私（親）ですが。

実際に声をかけられ、注意を受けた出来事も小学生のころにありましたが、知的障がい児に対して発言している自覚はその方もなかったと思われます。もっと障がいがわかりやすかったら優しくしてくれたのかな、なんて思ったこともありました。知的障がい者が主人公のドラマなどが放送されるなど、身近に障がい者のいない・知らない・わからない人の理解度も数十年の歴史の中で少しずつ変化してきたように思います。社会全体がいろいろな人がいるんだと理解して、優しくなれたらステキだなと思います。

人と行動が違う事で変な目で見られる事は多々あります。正直、人に迷惑をかけないと生きられないので、ある程度、しかたないのですが、社会がこういう障がいもあると認知することが大切だと思います。

知らない、分からないことに人は嫌だと感じるので、もっと外で人と触れ合うことができるようなところが欲しいですね。

本人や家族の受け取り方の違いで、人それぞれ、様々な感情が生まれると思います。障がいがあることは、不自由なことは多いですが、不幸せなことでは無いと私は思っています。しかし、心無い方からの視線、言動に対しては切なくなることはあるのは事実です。

本人が重度の知的障がいなので、差別について聞いても理解出来ませんでした。今まで、差別を受けたことはあったと思いますが、本人は理解できません。

私は、"差別""偏見"といった行為は、人としてあってはならない行為だと思う。好事例も悪事例も健常者の方々にわかりやすく伝わるよう、テレビや新聞等のメディアで発信してほしい。

良く見かけるのは、視覚障がい者誘導用ブロックの上に自転車が止められている風景ですが、見るだけで何もできません。
お店の駐車場で、障がい者用駐車場に停めている健常者を見て、注意したいと思いますが、注意できません。

社会で大多数の人が障がいのある方と接する機会が少ないので、無意識に排除しようとする行動や発言が出るのだと思う。
無知、無意識が本当に怖いと思う。

不当な扱いを受けたら相談ができ、その事案を解決もしくは手助けしてくれるサービスがあればいいと思う。

差別がある、差別されたと感じた時、どこに相談すればいいのかがわからない。相談窓口を明確にしてほしい。
子どもに障がいがある。難病を持っているだけでくわしい話を聞いてもらえないし、説明もしてもらえない。幼稚園等を探すときに、門前払いされたこともある。

知的・発達障がい者は自分では意見が言えないので、家族がその部分を補って公的機関、学校などに伝えていかなければならない。

ほとんどの人は「障がい者」について、「かわいそうだから」「助けてあげなければ」とか「何か自分にできることはないかな」と考える方たちが多いと思います。でも「何をしてもよいのか?」「声をかけるのがはずかしい」と思ってとっさに動けたり声をかけることのできる人は少ないと思います。それができる人は、身近に障がい者がいるか、学校や職場などに障がい者がいて一緒に過ごしたことがある方だと思います。

普段の生活の中で障がい者がそばにいるような社会になれば、「差別」はなくなると思います。障がい者が身近にいないと、どう接してよいかもわからないと思います。小さいころからボランティア等を通して障がい者との関わりを自然に体得できる仕組みも必要だと思います。

無知だからこそ、悪気のない差別があるのではないかと思うことがあります。

例えば、多目的トイレとあるけど、ユニバーサルシート（大人も横になれる大型シート）が無い事、スロープはあるけど、施設内や店内の通路が狭く車椅子では通行が困難な事など。

利用する側も諦めることが当たり前になっているのが現状ですが、障がいを知ってもらえたら、悪気のない差別に対して少しでも解消に繋がるのではないかと思います。

どこまでを差別とするかが難しいと思います。

同じ対応であっても個人の受け止め方で差別を感じる時とそうでない時があるからです。いずれにしても、障がい者が肩身の狭い思いをしないで生活できることが一番良いと思います。

昔に比べて今は理解も深まり、行政・病院等の対応は良くなってきていると感じています。

言葉を単語でしか話せない子どもと長年暮らしてきて、たくさんの良い人達に出会うことが出来、色々な経験をして成長できたこともたくさんありました。
ただ忘れられないくらい傷ついた経験もあります。世の中にいろんな年代、いろんな特性、障がいがある人がいることがあたり前な多様性と他者への思いやりがある世界になってもらいたいです。

差別を受けて困ったことは最近ほとんどなくなってきました。
ただ人の目、特に子供が自分と違うと思うとじろじろ見てくる視線は気になることはよくあります。
それを気にしても何もできないので、しつこく見てくる時には、逆に見返して視線の間に入り、「何か御用ですか？」と聞いてみたりしています。
対応の良いお店等では、入りやすく覚えてもらえて楽しく過ごさせています。
障がいは、いつ誰でもなるかもしれないこと、特別でもない世の中になってくれることを願います。

私は肢体障がい者です。病院での出来事ですが、障がい者トイレを使用している時、ロックをしていて使用中が判るのに、ドアを「ドンドン」たたく音がして、嫌な気持ちになりました。病院内に「院長への伝言」の用紙があり、障がい者トイレに「使用中」「空室」のマグネットカードの作成をお願いしたところ、次回診察時には、トイレにカードがありました。障がい者でも気が付いた時には声をあげる必要があります。今後も気を付けたいと思いました。